

携帯電話固定用自助具の製作

1 相談内容

相談者は、電動車いすを利用しており、これまで車いすテーブルの上に会話補助装置を置いてコミュニケーションをとっている方です。ただし、会話補助装置の電源を入れず、50音の文字板を指差して、コミュニケーションをとっています。声はほとんど出せません。携帯電話を持っていますが、かばんの中にしまっていて必要な時はヘルパーに出してもらってメール機能を使っているとのことでした。

電動車いすに乗っている時に、ヘルパーに一々かばんから携帯電話を出してもらうのではなく、どこかに取り付けて、すぐメール操作ができるようにしたいという要望、ご相談がありました。

2 利用者プロフィール

40代男性、脳性まひのある方で身体障害者手帳1級です。一人で暮らしています。働いているときや外出時は電動車いすを利用し、自宅内では座椅子を使用しています。ヘルパーに入ってもらって電動車いすへの移乗のほか、家事援助や入浴介助をしてもらっています。

3 対応

アクリル板を貼り合わせ、携帯電話の収納部を下に、その上に固定部を設けた2層構造で携帯電話固定用自助具を製作しました。会話補助装置の右側に車いすテーブルを支える板があり、そこに携帯電話を開いた状態で固定できるようにしました。念のため、激しい振動となっても携帯電話が飛び出さないよう、100円ショップで購入したランチベルトで留めました。



製作した携帯電話固定用自助具



携帯電話収納部(下部)の様子

4 結果

本人は問題なく使用することができました。携帯電話のキー部分が大きく開いていて操作しやすく、とても良いという感想をいただきました。